

社会福祉援助技術実習指導B			科目コード	CP5191
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(演習)	4年	阿部 一彦/高橋 誠一/竹之内 章代/ 田中 治和/三浦 剛/山川 敏久/ 佐々木 裕彦/佐藤 哲夫/佐藤 博彦ほか	

・2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前に入学した方、福祉心理学科の方は、履修することはできません。

・「実習指導B-1」「実習指導B-2」「実習指導B-3」に分割されており、すべてのスクーリングを同一年度内に受講しなければなりません。同一年度内に受講ができなかった場合は、「実習指導B-1」からあらためての受講になります。

・「実習指導B-1」は「演習C-1」と、「実習指導B-3」は「演習C-2」と2日間連続でのスクーリング受講が必要となります。

※スクーリングを欠席された方は、「社会福祉援助技術実習」は受講・単位修得できません。

※今後の実習受け入れ状況などにより、ここに記載の内容・日程を変更する場合があります。『実習の手引き』や『With』でご案内します。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉援助技術（相談援助）実習の意義について理解し、具体的かつ実践的な技術等を体得することを目的としています。

相談援助実習にかかわる個別指導ならびに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について、事例等を通じて具体的かつ実践的に理解し、かつ実践的な技術等を学修します。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得します。

具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を併せて修得することを目的とします。

■到達目標

- 1) プライバシー保護と守秘義務について法的基準や方法の説明ができる。
- 2) 実習記録の記録内容を理解し、実際に記録できる。
- 3) 実習施設・機関業務、周辺社会資源について具体的に説明できる。
- 4) 実習課題を整理し、専門職としての今後の課題を説明できる。
- 5) 援助技術理論に沿って具体的な社会福祉士像をつくり、他者に伝えることができる。

■教科書（「実習指導A」「実習」と共通）

- 1) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第1分冊）』東北福祉大学（「演習A」時に配付済み）
- 2) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第2分冊）』東北福祉大学（「実習指導A」スクーリング受講

許可者に配付)

- 3) 『社会福祉援助技術実習 課題ノート』東北福祉大学(「実習指導A」スクーリング受講許可者に配付)
- 4) 長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士相談援助実習 第2版』中央法規出版、2014年

(最近の教科書変更時期) 2014年4月

※「実習指導A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(スクーリング時の教科書)「社会福祉援助技術実習指導A」と共通

■履修登録条件

この科目は「実習指導A」をすでに履修登録済みで、「演習C」と「実習」を同時に履修登録する方が履修登録できます。

※その他、履修の前提科目は『学習の手引き』の「社会福祉士国家試験受験資格」をご参照ください。

■参考図書

「社会福祉援助技術実習指導A」の「参考図書」参照。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「ICT活用力」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■単位認定

レポート20%+実習評価50%+実習記録30%で評価します。

単位認定通知は、「実習指導B-3」スクーリング受講後1カ月程度で書面にて通知します。

スクーリング

■実習指導B スクーリング受講条件

- ① 実習申込受理判定に合格していること。
- ② 「実習指導A」スクーリングを受講済みであること。
- ③ その他、『社会福祉援助技術実習の手引き 第1分冊』も参照してください。

■スクーリング申込方法

※申込みに関するご案内および申込用紙の配付は、「実習指導A」スクーリング時に行います。

※各課題の提出締切日は『試験・スクーリング 情報ブック』を参照してください。

「実習指導B-1」申込締切：3/15

→「演習C-1」とセットでの申込み(正科生の実習受講者)。

「実習指導 B - 2」 申込締切：3 / 15

「実習指導 B - 3」 申込締切：6 / 30 (8 ~ 10月受講者)、8 / 31 (11 ~ 12月受講者)

→ 「演習 C - 2」とセットでの申込み (正科生の実習受講者)。

■スクーリング開講予定

※詳細は『試験・スクーリング 情報ブック』を参照してください。

「実習指導 B - 1」(会場：各地 開講時期：4 ~ 5月)

→ 翌日の「演習 C - 1」とセットでの受講 (正科生の実習受講者)。

「実習指導 B - 2」(会場：各地 開講時期：6月)

「実習指導 B - 3」(会場：各地 開講時期：8 ~ 12月)

→ 翌日の「演習 C - 2」とセットでの受講 (正科生の実習受講者)。9月末卒業希望者は、8月下旬の仙台会場のみ。

■実習指導 A・Bスクーリング受講料

「実習指導 A・Bスクーリング受講料」は合計20,000円となります。「実習指導 B - 1」許可時に請求予定です。納入期限は5 / 10です。

■スクーリングで学んでほしいこと

相談援助実習にかかわる知識と技術について、事例等を用いた個別指導ならびに集団指導を通して、具体的に理解し、実践できるようになることを目標とする。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、専門職としての総合的な能力を身につける。併せて、これまでの具体的な学習体験を、概念化し理論体系のなかに位置づけることができる能力を身につける。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	相談援助に係る知識と技術に関する理解	専門性の理解 (倫理綱領含む)
2	プライバシー保護と守秘義務の理解	プライバシー保護・守秘義務の理解
3	実習記録の記録内容及び記録方法に関する理解	実習記録の記録内容・記録方法
4	実習計画案の作成指導①	実習課題の整理
5	実習計画案の作成指導② (地域別実施)	実習課題の達成方法
6	実習施設関連の基本的理解 (地域別実施)	社会資源の把握
7	実習課題の整理①	価値・倫理・知識・技術に関する課題の整理①
8	実習課題の整理②	価値・倫理・知識・技術に関する課題の整理②
9	全体総括①	実習の評価・総括①
10	全体総括②	実習の評価・総括②

■講義の進め方

1)～4) は実習事前指導 B-1、5) 6) は実習事前指導 B-2、7～10) は実習事後指導 B-3として行います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前課題（p.204課題①）に取り組んでおくこと。

レポート学習

■在宅学習12のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	相談援助実習の仕組み 相談援助実習の仕組み（全体像） 実習におけるジェネリックとスペシフィックの学び （第2部第9章第1～2節）	相談援助実習の構造および相談援助実習指導の構造を理解する。また、実習におけるジェネリックとスペシフィックの学びを理解する。 キーワード：ジェネリックの学び、スペシフィックの学び	相談援助実習の仕組み（全体像）を理解しましょう。また、事前学習で学んでおくべき内容を確認しましょう。また、相談援助実習教育の展開における実習指導におけるジェネリック・スペシフィックの変換について理解しましょう。 ※第1回～第9回までは、実習前学習
2	相談援助実習の仕組み 事前学習で学んでおく内容 相談援助実習指導（実習中）の展開例 相談援助実習指導（実習後の1学期分）の展開例 （第2部第9章第3～5節）	事前学習の内容、実習計画の作成と事前訪問の意義を理解するとともに、併せて実習指導の展開例を理解する。 キーワード：実習計画書、実習プログラム、実習前評価、実習評価、実習・実習指導科目成績評価、実習巡回	通知に示されている事前学習の内容を確認しましょう。また、実習計画の作成と事前訪問の意義を確認するとともに、実習計画書（案）作成と実習プログラムの関係（すり合わせの必要性）も理解しましょう。実習巡回のミニマムスタンダードの内容と事後学習の内容についても理解しましょう。
3	実習中の経験と学習 相談援助実習における学習 実習で何をどこまで経験するのか（方法論） 基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成 （第3部第10章第1～2節）	実習で何をどこまで経験するのか、その方法論を理解する。基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成について理解する。 キーワード：アセスメント、支援計画作成、地域アセスメント	実習経験の方法を確認しましょう。また、基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成について、教科書の事例を参照し、事例場面の理解、学びとの照合について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	<p>実習中の経験と学習 相談援助実習における学習 利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との権利擁護および支援 (第3部第10章第3～5節)</p>	<p>利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成について理解する。利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成や権利擁護および支援について理解する。</p> <p>キーワード：支援計画、インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリング、計画評価、バISTECKの7原則、成年後見制度、日常生活自立支援事業、苦情解決制度、第三者評価、個人情報保護、差別の解消、消費者保護法</p>	<p>キーワードの理解を中心に学習をしましょう。キーワードは確実に説明できるようにしておきましょう。また、インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリング、計画評価についてもその具体的内容等を理解しましょう。</p>
5	<p>実習中の経験と学習 相談援助実習における学習 チームアプローチの実際 社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解 (第3部第10章第6～7節)</p>	<p>チームアプローチの実際、社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任について理解する。</p> <p>キーワード：チームアプローチ、倫理綱領</p>	<p>チームアプローチの必要性を事例を基に理解しましょう。また、社会福祉士の「倫理綱領」および「社会福祉士の行動規範」を確認しましょう。</p>
6	<p>実習中の経験と学習 相談援助実習における学習 実習機関・施設の経営やサービスの管理運営の理解 地域社会の一員としての実習機関・施設の理解 (第3部第10章第8～9節)</p>	<p>実習機関・施設の経営やサービスの管理運営、地域社会の一員としての実習機関・施設について理解する。</p> <p>キーワード：最低基準、事業報告・事業計画、理事会、評議委員会、共同募金、施設の社会化、インフォーマルな社会資源、地域アセスメント、地域福祉計画、地域福祉活動計画、ネットワーク、福祉教育、広報啓発活動、地域の組織化</p>	<p>キーワードの理解を中心に学習をしましょう。キーワードは確実に説明できるようにしましょう。地域の組織化の展開過程を確認しておくとともに各過程においての社会福祉士の役割も理解しましょう。</p>
7	<p>実習記録 「相談援助」における記録の意義 実習に際し実習生が作成する「記録」 実習記録ノート(実習日誌)の内容 (第3部第11章第1～3節)</p>	<p>「相談援助」における記録と実習記録ノート(実習日誌)の意義について理解する。また、記述の留意点について理解する。</p> <p>キーワード：自己確認、評価ツール、プライバシー配慮</p>	<p>「相談援助」における記録と実習記録ノート(実習日誌)の意義について理解しましょう。また、記述の留意点について(記述内容、正確さ、訂正の方法、プライバシー配慮等)確認しましょう。</p>
8	<p>実習スーパービジョン、訪問指導 実習スーパービジョン関係の理解 実習スーパービジョンの受け方 スーパーバイザーに求められる姿勢 (第3部第12章第1～3節)</p>	<p>実習スーパービジョンについて、関係の理解、受け方について、また、スーパーバイザーに求められる姿勢について理解する。</p> <p>キーワード：実習スーパービジョン、個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、スーパーバイザー</p>	<p>実習スーパービジョンについて、その受け方の場面や方法を確認しましょう。また、スーパーバイザーに求められる姿勢とは何かを理解しましょう。</p>

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	実習スーパービジョン、訪問指導 実習スーパービジョンの実際 実習の中断・中止の事例 (第3部第12章第4～5節)	実習スーパービジョンの実際について理解する。また、実習の中断・中止について事例を基に実習スーパービジョンの実際を理解する。 キーワード：スーパービジョン	実習スーパービジョンの実際を教科書を参考に理解しましょう。
10	実習終了後の学習 実習後の学習課題と全体総括 社会福祉士実習における事後学習の意義 実習後の学習内容と方法 実習の全体総括 (第4部第13章第1～3節)	社会福祉士実習における事後学習の意義と実習後の学習内容とその方法を理解する。また、実習の全体総括の内容、方法を理解する。 キーワード：実習報告書、実習報告会	社会福祉士実習における事後学習の意義を理解しましょう。また、事後学習のポイントを理解しましょう。全体総括の実施方法等も確認しましょう。 ※第10回～第12回までは、実習終了後学習
11	実習の評価 実習評価の具体的な方法 実習評価表の活用方法 実習指導者の評価の確認 (第4部第14章第1～3節)	実習評価の具体的な方法および実習評価表の活用方法について理解する。また、実習指導者の評価の確認、位置づけについて理解する。 キーワード：実習評価、自己評価、他者評価、実習評価表	実習評価の具体的な方法を「実習過程と評価主体ごとの主な評価活動」を参考に確認しましょう。また、自己評価と他者評価について意義と有用性を確認しましょう。実習評価表の活用方法を整理するとともに、実習指導者の評定の位置付けを理解しましょう。
12	求められる社会福祉士を目指して (第15章)	今後求められる社会福祉士の役割は何かを理解する。 キーワード：実践応用力	教科書で確認しましょう。また、社会保障審議会福祉部会「介護福祉士制度及び社会福祉士制度の在り方に関する意見」(2006(平成18)年12月)も参考とするとよいでしょう。

■レポート課題

課題①	<p>(実習指導 A スクーリング受講後)</p> <p>実習先に対応した「実習計画案」を作成してください。その場合、実習のねらい(この実習で学びたいこと、この実習先・種別を選んだ理由・動機、将来に向けての希望等を明確にすること。また、実習課題を明確にすること。(これまで「実習指導A」で学んだ利用者、業務、専門性などに関する課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 『社会福祉援助技術実習の手引き 第1分冊』巻末の「様式6-1～4(下書き用)」を使用。 ※ 必ず鉛筆書きで作成しコピー1部(A4サイズ、両面コピー不可)を大学へ提出すること。 ※ 原本は保管しておくこと。 ※ 返信用封筒を同封すること(定形封筒なら92円切手貼付、あて先明記)。 ※ 提出締切日は、『試験・スクーリング 情報ブック』をご参照ください。 ※ 添削を受けた後に修正した「実習計画案」を「実習指導B-1」スクーリングに持参してください。
-----	--

課題②	<p>(実習先への事前訪問学習後) 実習計画案「課題1」をより具体化させて、「実習計画書」を作成してください。その場合、実習を通して学びたいこと、学ぶための具体的な方法などを詳細に記載すること。 ※ 『社会福祉援助技術実習の手引き 第1分冊』巻末の「様式7-1~6」を使用すること。 ※ 課題1で作成した実習計画案を基にして作成すること。その際、教員や実習先による添削内容を参照し作成すること。 ※ 鉛筆書きで作成し、実習開始1カ月前までにコピーを大学へ2部、実習先へ1部提出(FAX、Eメール不可)。</p>
課題③	<p>(実習終了後) 実習で学んだ内容を分析・考察してください。単なる感想にならないよう注意してください。 ※ 内容は、はじめに実習施設の概要、実習内容、実習課題の達成状況、全体のまとめ(今後の課題も含む)を記載してください。その他の項目を追加しても構いません。 ※ 通常のレポート用紙で提出してください(字数4,000字程度)。 ※ 提出締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』をご参照ください。 ※返却は提出締切日後1カ月程度となります。</p>
課題④	<p>(実習終了後) 完成させた『社会福祉援助技術実習 課題ノート』を提出してください(すべて鉛筆書き)。 ※ 「実習指導B-3」スクーリングに持参してください。</p>
課題⑤ <small>(科目等履修生として 実習受講者用追加課題)</small>	<p>(実習終了後) 利用者の権利擁護の重要性について、あなた自身の考えを、実習を行う前と実習終了後を比較しながら、具体的に述べてください。 (担当：佐藤博彦) ※ 科目等履修生として実習を受講する方のみが提出する課題です。 ※ 通常のレポート用紙で提出してください(字数2,000字程度)。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

主体的に取り組んでください。また、教科書は必ず熟読してください。課題1・課題2については、『社会福祉援助技術実習の手引き 第2分冊』を参考にしてください。ただし、計画案の丸写しは絶対しないでください(再提出になります)。

【課題3 レポート講評の基準】

(注意) この評価は「実習」の評価ではなく、このレポートの評価です

「再提出」の場合

1. 題意が把握できていない(実習体験の羅列で終わっている)
2. 誤字、脱字が多く、文章の意味が通らない表現である
3. その他(コメント欄を参照)

「実習課題」-「実習体験」-「学んだこと」の対応が明確で十分分析されており、したがって自分のことばで学んだことをより具体的に表現することができている

「優」

- ・文献も用いて、考察をいっそう深めている

「秀」(非公式)

学んだことの分析はある程度はされているが、「実習先の概要」「実習の内容」「課題の達成状況」などの構成がされおらず、したがって感想文的である

「可」

定められた構成がされており、実習課題にそって学んだことがまとめられているが、「理解した」「達成できた」というレベルで、どのような実習体験を通して、どのように学んだのかという分析が十分ではない

「良」

***「引用・出典明示」、「現実との関連づけ」について**
 このレポートでは評点の対象としません(良い場合、または必要な場合はコメント欄に記載します)。